

## 再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課  
担当課長名： 服部 卓也

<b>事業名</b> 連続立体交差事業 <small>けいひんきゆうこう</small> 京浜急行電鉄本線（ <small>せんがくじ</small> 泉岳寺駅～ <small>しんばんば</small> 新馬場駅間）	<b>事業区分</b>	連続立体交差	<b>事業主体</b>	東京都
<b>起終点</b>			<b>延長</b>	1.7km
<b>事業概要</b> 本事業は、京浜急行電鉄本線の泉岳寺駅から新馬場駅間の約1.7kmにおいて、鉄道を高架化することにより3箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。				
R2年度事業化		H30年度都市計画決定		R2年度用地着手
R3年度工事着手				
<b>全体事業費</b>		<b>事業進捗率</b>		<b>供用済延長</b>
約1,247億円		約6%		— km
<b>計画交通量</b> 35,733台時/日（踏切交通遮断量）				
<b>費用対効果</b>	<b>B/C</b> （事業全体） 1.5  （残事業） 1.9	<b>総費用</b> （残事業）/（事業全体） 901/1,119億円 事業費：834/884億円 関連道路整備費：59/227億円 維持管理費：8.3/8.3億円	<b>総便益</b> （残事業）/（事業全体） 1,708/1,708億円 移動時間短縮便益：1,701/1,701億円 走行経費減少便益：7.9/7.9億円 交通事故減少便益：-0.3/-0.3億円	<b>基準年</b>  令和4年
<b>感度分析の結果</b> （事業全体）交通量：B/C=1.4～1.7（交通量±10%） 事業費：B/C=1.4～1.7（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.5～1.6（事業期間±1年）				
（残事業）交通量：B/C=1.7～2.1（交通量±10%） 事業費：B/C=1.7～2.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.8～2.0（事業期間±1年）				
<b>事業の効果等</b> ・歩行者、自転車の回遊性の向上 踏切の解消や品川駅の地平化等により、東西市街地の行き来が容易となり、歩行者・自転車の移動が円滑化され、回遊性が向上 ・高架下空間の活用による都市機能の向上 高架下空間や駅前交通広場等の活用によるにぎわいの創出 ・関連事業の誘発 「国際交流拠点・品川」において、京急線の地平化により、品川駅機能の強化を図っていくことで、関連事業の誘発に貢献				
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 【東京都連続立体交差事業促進協議会（R4.11.17）】 ・連続立体交差事業の計画的な事業促進が図られるよう要望する。				
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 事業継続を妥当と認める。				
<b>事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等</b> 周辺環境等に特に変化はない。				
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> ・用地取得率約24%、事業進捗率約6%				
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> ・1工区～3工区 近接する他工区の事業との施工調整を密に行い、事業工程に影響が出ないよう努める。 ・4工区 工事工程との整合を図るため、進捗管理を徹底し、用地取得を進める。 ・5工区 国道の一部を占用して仮設材を設置するため、施工時期を見据え、道路管理者との協議を進める。				

施設の構造や工法の変更等

今後も既存施設の活用や工法の比較検討等により工事コストの縮減等に努めていく。

対応方針

事業継続

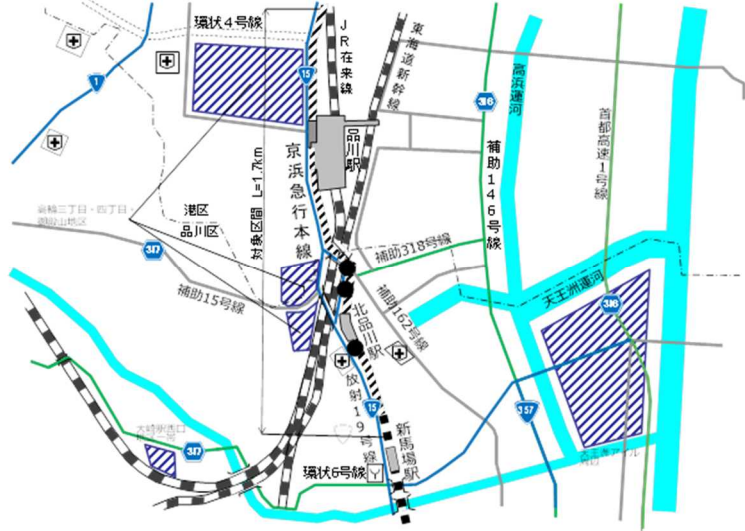
対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性が著しく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



凡例	
●	開かずの踏切
////	鉄道平面・高架区間
■ ■	鉄道立体化済み区間
—	既立体交差化箇所
---	未整備都市計画道路
■	第1次緊急輸送道路
■	第2次緊急輸送道路
///	避難場所



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。